

※最新版は、

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/leaf\\_series](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series)  
から直接ダウンロードできます。



# 特別支援教育リーフ Vol.24

困難さのある高校生の  
進路指導の充実を目指して  
～自己理解に焦点を当てて～

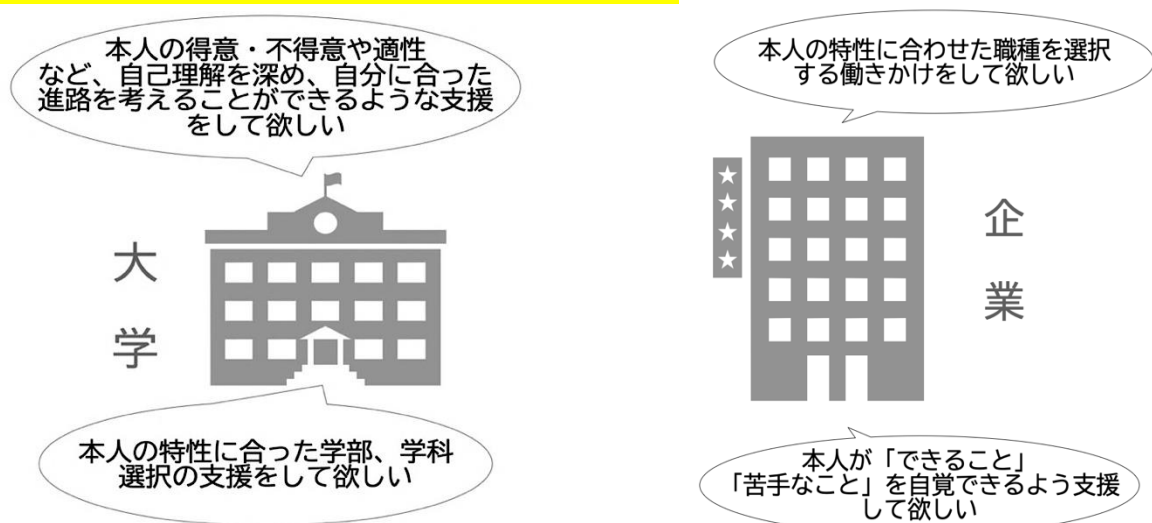


## 困難さのある生徒の進路指導を充実させるために

高等学校には、様々な困難さのある生徒が在籍しています。進路指導にあたっては、本人の希望及び能力・適性を踏まえ、よりよい自己実現につながる学校や職場の選択を支えることが期待されます。中でも、障害のある生徒は、障害特性を踏まえた「自己理解」をとおり、力を発揮しやすい環境や必要な配慮を考えていくことも大切です。

- ◆生徒の「自己理解」を促すために、「実態把握」「よい点のフィードバック」「苦手なことへの対処方法の検討」「体験的な学習と振り返り」などをていねいに行うことが大切です。
- ◆進路指導を充実させるために、生徒の「自己理解」のみならず、学校や保護者、進路先をはじめとした周囲の理解や協力も大切です。

### 進路先から期待されていることは？



※「高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究」より

高等学校には、学習上又は行動面で著しい困難さを示す生徒が2.2%在籍していることが明らかとなっています。それぞれの高等学校では、学校教育目標、通う生徒の実態、保護者や地域のニーズ、進路先の状況、学校が受け継いできた伝統や歴史等を踏まえ、特色ある進路指導を実践されていることと思います。また、進路指導の過程では、生徒の自己理解を促す教育活動を重視しているのではないのでしょうか。しかし進路先からは、上記の吹き出しに示したように、生徒の自己理解を支える指導・支援の充実が期待されています。この背景として、進路先での適応に向けて、多面的な自己理解が重要となることが挙げられます。

高校生の進路選択は、その後の人生に大きな影響を与える重要な要素の一つです。また、中学生の進路選択に比べて考えるべき要件が多くなることから、将来の選択に不安を感じたり、悩んだり、自信を持てなかつたりすることがあります。教員は、生徒のよりよい自己実現を支えるために、生徒の「価値観や大切にしていること」「好きなことや得意なこと」「もっている強みやその強みを発揮できる状況」「苦手なことや配慮が必要なこと」等を一緒に考え、進路選択の伴走者になることが重要です。こうした多面的な自己理解を促す指導・支援の過程では、学校や保護者、進路先をはじめとした周囲の理解や協力もとても大切です。

## 困難さのある生徒の「自己理解」を促す上で大切な4つの視点

障害のある生徒の場合、障害特性により進路の選択条件が増えるため、自分の適性に合った進路先を選択することがさらに難しくなることがあります。また、中には、障害特性等から適切に自己評価することが難しい生徒もいます。ここでは、様々な困難さのある生徒の進路指導の充実に向け重要となる「自己理解」に焦点をあて、大切な4つの視点を紹介します。

生徒ができていること、得意なこと、興味の持てること、集中が続く作業や場面等を把握します。

苦手なことについては、その要因を考え、実際に受けている具体的な支援方法を整理しておくことも必要です。これは進路先への合理的配慮を申請する上でも必要になります。



支援に向けた  
実態把握

困難さのある生徒に対しては、苦手なことに目が向きがちです。意識的に生徒ができていることや得意なこと等、生徒のよい点に着目していきましょう。

生徒自身も自分のよさに気付けるよう、他者の視点からできていることを具体的に伝えたり努力を認めたりすること

よい点の  
フィード  
バック

で、自己評価の低さを修正し、適切な自己理解を促す支援が大切です。

生徒が苦手なことに向き合う際、自己肯定感や学習意欲が低下しないよう、苦手なことに対して「〇〇の方がやりやすいように思うけど、どう？」など、生徒が取り組みやすい具体的な提案ができるとよいでしょう。

また、生徒に合った提案をするためには「実態把握」が不可欠となります。生徒が前向きに取り組めるよう、個々の実態に応じた提案の工夫が大切です。

苦手なことへの  
対処方法  
の検討

体験的な学  
習と振り返り

進学先や就職先のイメージをもちにくいことがあります。具体的にイメージできるように、オープンキャンパスへの参加や就業体験等を行うことが望まれます。また、実際の場面を想定したロールプレイや作業体験等を行うことで、進路先で必要となるスキルを学んだり、得意・不得意への気付きを深めたりすることができます。また、学習後に個別の相談の機会を設定して一緒に振り返ることで、様々な学びが体系化され、少しずつ身に付いていきます。

## ☆さらなる理解のために☆

### 困難さのある生徒の進路指導の充実に向けた5つのポイント

本リーフは、国立特別支援教育総合研究所が令和3～5年度に実施した「高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究」に基づいて作成しています。また、本文で紹介した「自己理解」については、障害のある生徒の進路指導の充実に向けたポイントを5つの視点から整理したガイドブック「事例で学ぶ！発達障害のある高校生の進路ガイド～5つのポイントで分かる指導・支援～」を参照しています。ガイドブックでは、本リーフで紹介した「自己理解」以外の視点も併せて解説しています。

#### 5つのポイント

1. 組織的対応
2. 自己理解を促す指導・支援
3. 自立と社会参加への力を育む指導・支援
4. 進路先決定を支える指導・支援
5. 連携による支援



#### <参考文献>

[○国立特別支援教育総合研究所「事例で学ぶ！発達障害のある高校生の進路指導ガイド～5つのポイントで分かる指導・支援～（2025）」,明治図書.](#)

発達障害のある高校生への進路指導を充実させるための具体的な指導や支援方法について、5つのポイントで整理しています。それぞれのポイントごとに、取組事例も複数紹介しています。



#### <参考情報>

[○国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育リーフ「Vol.13 障害のある子供へのキャリア教育」](#)

障害のある生徒へのキャリア教育の基本的な考え方について解説しています。進路指導の実践においては、キャリア教育の理念が前提にあることが大切です。まずは、「キャリア教育」についての基本的な考え方を確認してみましょう。



[○国立特別支援教育総合研究所「高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究」](#)



 独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ

<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803（代表）

初版発行 令和7年3月